

2024年度 関西学院大学 海外客員教員(招聘A) 成果報告書

書式 1

(適宜行追加可)

受入担当 教員	所属・職	経営戦略研究科・教授
	氏名	石原 俊彦
海外客員 教員	所属・職	経営戦略研究科・招聘A教授 (英国エジンバラ大学ビジネススクール教授)
	氏名	Stephen Osborne
招聘目的		1. 授業担当及び研究 ②. 共同研究 3. 特別枠 (いずれかに○)
招聘期間		2025年 2月 1日～ 3月31日
成果報告 以下の内容を日本語で記載して下さい。		(1) 共同研究の内容 受入教員とその博士課程後期課程研究室(現役の博士課程後期課程生/大学院研究員・OBOGの研究者・大学教員の合計約25名で構成)では、Osborne教授の研究領域であるPublic Service Logic & Ecosystem (PSL&E)に大きな関心を有してきた。研究室のメンバーと受入教員は、それぞれに研究領域の視点から、PSL&Eをそれぞれの学問領域のフレームワークに組み込もうと模索してきた。そうした研究成果の一部はすでに、石原俊彦監訳『パブリックサービスロジック』2023年、関西学院大学出版会として公表されている。今回の招聘による共同研究の内容は、これまでのOsborne教授との研究内容を深化させて、その成果をワークショップや研究論文としてアウトプットすることにある。 (2) 共同研究の成果 第1に、日英伊三国の研究者による研究ワークショップを2025年2月15/16日に開催した。ここではPSLの共創をイタリアの事例に基づいて検討するとともに、イタリアの事例から日本が学ぶ要点が抽出された。 第2に、オズボーン教授の編著『Framing the Public Service Logic』(2026年に出版予定)において、受入教員とオズボーン教授はOne Book Chapter「Accounting for value: approaching performance management and accounting for public service organizations from Public Service Logic perspective」を共同で執筆した。また、受入教員の研究室に在籍して博士(先端マネジメント)の学位を取得した松尾亮爾経営戦略研究科准教授・荒木利雄兵庫県立芸術文化観光専門職大学教授・勝田 篤福山大学経済学部専任講師も受入教員との共同執筆で同じくOne Book Chapter「Consideration on the usefulness of Public Service Logic in policy formulation through empirical application」の原稿を完成して、オズボーン教授のレビューを得て、同教授の編著の中に1つの章として掲載される予定である。オズボーン教授は、公共政策や公共経営に関する欧州最大の研究学会(IRSPM)の創設者であり、この研究領域の代表的な査読雑誌である『Public Management Review』の編集代表者である。こうした著名なオズボーン教授の編著に今回の招へいに関わる研究者4名が原稿を掲載できることは、本共同研究における顕著な研究成果とみなすことができる。

受入担当教員が成果報告欄を記入される場合は本書式をお使いください。

* 本報告書は本学ウェブサイト等で公開されます